

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名	カジリトール
会社名	池田金属工業株式会社株式会社
住所	大阪市西区新町4-7-11
担当部門	調達部
電話番号	06-6538-2678
FAX番号	06-6543-0420
製品コード	63-XX/300801
受付時間	月曜日～金曜日 9:00～17:00

2. 危険有害性の要約

特有の危険有害性

この商品は、記載の法令に該当しますので、該当する法令の内容を確認し取扱ってください。
危険物第4類 第3石油類（消防法 危険物）
引火性物質（労働安全衛生法 施行令 危険物 引火性の物）

GHS分類

エアゾール	区分1
急性毒性（経口）	分類対象外
急性毒性（経皮）	分類対象外
急性毒性（吸入－ガス）	分類対象外
急性毒性（吸入－蒸気）	分類対象外
急性毒性（吸入－粉塵・ミスト）	分類対象外
皮膚腐食／刺激性	分類対象外
眼に対する重篤な損傷性／刺激性	区分2B
呼吸器感作性	分類対象外
皮膚感作性	分類対象外
生殖細胞変異原性	分類対象外
発がん性	分類対象外
生殖毒性	分類対象外
特定標的臓器／全身毒性（単回暴露）	区分1（循環器系）
特定標的臓器／全身毒性（反復暴露）	区分3（麻酔作用）
吸引性呼吸器有害性	区分1（中枢神経系）
水生環境有害性（急性）	区分1（シンボル: 環境、注意喚起語: 警告）
水生環境有害性（慢性）	分類対象外
	分類対象外

GHSラベル要素

シンボル



注意喚起語

危険

危険有害性情報

極めて可燃性／引火性の高いエアゾール
高压容器: 熱すると破裂のおそれ
引火性の高い液体および蒸気
循環器系の障害
眠気又はめまいのおそれ
長期にわたる、又は反復ばく露による中枢神経系の障害

注意書き
予防策

すべての安全注意(SDS等)を読み理解するまで取扱わないこと。
 熱、火花、高温体等の着火源から遠ざけること。禁煙。
 防爆型の電気機器、換気装置、照明機器、火花の出ない工具を使用すること。
 静電気放電に対する予防措置・火花による引火を防止すること。
 保護手袋、保護眼鏡、保護面、保護衣を着用すること。
 屋外又は換気の良い場所でのみ使用し、ミスト、蒸気スプレーの吸入を避けること。また、飲み込まないこと(飲み込むと下痢、嘔吐する)。
 この製品を使用する時に飲食しないこと。
 取り扱い後はよく手を洗うこと。
 空容器に圧力をかけないこと(破裂の恐れがあるため)
 容器を溶接、加熱、穴あけ又は切断しないこと(残留物が爆発・発火する恐れがあるため)。
 環境への放出を避けること。

対応

火災の場合: 消火には粉末、泡または炭酸ガス消火器を使用すること。
 皮膚(又は髪)に付着した場合: 直ちに汚染された衣服を脱ぎ、皮膚を大量の水と石鹼で洗うこと。汚染された衣服を再使用する場合には洗濯すること。
 皮膚刺激が生じた場合: 医師の診断・手当てを受けること。
 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。医師の診断・手当てを受けること。

暴露あるいは暴露の懸念がある、又は気分が悪い場合: 医師の診断・手当てを受けること。
 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 飲み込んだ場合: 直ちに医師に連絡すること。無理に吐かせないこと。
 医師の診断が必要な場合: 製品容器またはラベルを手元に用意すること。

保管

直射日光を避け、涼しく換気の良い場所に保管すること。
 容器を密閉し、保管場所に施錠すること。
 子供の手の届かない場所に保管すること。

廃棄

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄処理業者に廃棄を委託する(不明な場所は購入先に相談の上処理すること。)

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別
 化学名又は一般名
 別名
 成分及び含有量
 【第4類 第3石油類】:

混合物
 焼付防止剤スプレー
 石油系炭化水素及び添加剤スプレー

45~55%
 基油
 添加剤 30質量%以上 40質量%未満
 塩素化パラフィン 約10%
 詳細は営業機密であり非公開。

化学特性(化学式)
 官報公示整理番号
 (化審法・安衛法)
 CAS No.
 【噴射剤 LPG】:

特定できない
 構成物質は全て既存化学物質であるが、番号は営業秘密であり非公開
 番号は営業秘密であり非公開

45~55%
 プロパン 18質量%以上 22質量%未満(CAS NO74-98-6/化審法番号2-3)
 ブタン 78質量%以上 82質量%未満
 ノルマルブタン(CAS NO106-97-8/化審法番号2-4)
 イソブタン(CAS NO75-28-5/化審法番号2-4)
 ペンタン 2.1質量%未満(注1)
 ノルマルペンタン(CAS NO109-66-0/化審法番号2-4)
 イソペンタン(CAS NO78-78-4/化審法番号2-4)
 (注1)ブタン濃度の内数

危険有害成分
 化学物質管理促進法

塩化直鎖パラフィン(炭素数14-17)(政令番号 1-090)約10質量%

労働安全衛生法
毒物劇物取締法

鉱油・ブタン・ペンタン(第57条の2 通知対象物 政令番号 第168号)
非該当

4. 応急措置

吸入した場合	<ol style="list-style-type: none"> 新鮮な空気のある場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。体を毛布等でおおい、保温して安静を保ち、直ちに医師の手当てを受ける。 呼吸が止まっている場合及び呼吸が弱い場合は、衣類をゆるめ、呼吸器道を確保した上で人工呼吸を行う。
皮膚に付着した場合	直ちに汚染された衣服を脱ぎ、皮膚を大量の水と石鹼水で洗う。汚染された衣服を再使用する場合には洗濯する。
眼に入った場合	清浄な水で数分間注意深く洗う。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続け、最低15分間洗浄した後、医師の手当てを受ける。
飲み込んだ場合	無理に吐かせないで、医師の手当てを受ける。口の中が汚染されている場合は、水で十分洗う。
予想される急性症状及び遅発性 症状、並びに最も重要な徴候及 び症状 応急措置をする者の保護 医師に対する特別注意事項	誤飲した場合、胃の粘膜を刺激し、吐くことがある。嘔吐中に、飲み込んだ本品が肺に吸入されると、化学性肺炎を起こし、致命的となる可能性がある。 現在のところ有用な情報なし。 現在のところ有用な情報なし。

5. 火災時の措置

消火剤	<ol style="list-style-type: none"> 霧状の強化液、粉末、炭酸ガス、泡が有効である。 初期の火災には、粉末、炭酸ガス消火剤を用いる。 大規模火災の際には、泡消火剤を用いて空気を遮断することが有効である。
使ってはならない消火剤 火災時の特定危険有害性	棒状水の使用は、火災を拡大し危険な場合がある。 <ol style="list-style-type: none"> 高温の金属表面等に接触したり、燃料管から漏洩した場合、発生した蒸気によって燃焼や爆発が起きる可能性がある。 燃焼の際は、一酸化炭素、亜硫酸ガス等が生成される。
特定の消火方法	<ol style="list-style-type: none"> 周囲の設備等に散水して冷却する。 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
消火を行う者の保護	<ol style="list-style-type: none"> 消火作業の際は、風上から行い必ず保護具を着用し、皮膚への接触が想定される場合は、不浸透性の保護具及び手袋を着用する。 消火作業を行う者は、空気呼吸器などの保護具を着用し、酸素欠乏および有害ガスから身をまもること。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置 環境に対する注意事項	消火用器材を準備する。作業の際には消火用保護具を着用する。 <ol style="list-style-type: none"> 下水道・河川等に流出し、二次災害・環境汚染を起こさないよう注意する。 海上の場合、展張船によるオイルフェンスの展張は危険防止のため蒸気の及ばない範囲で行う。止むを得ず危険範囲に近づく場合は蒸気の拡散状況を把握し(風向、風速、ガス濃度等)安全を確認する。
回収、中和、並びに封じ込め 及び浄化の方法・機材	<ol style="list-style-type: none"> 蒸発しやすいので、速やかに全ての着火源を取り除き、漏洩箇所の漏れを止める。 危険地域より人を退避させる。危険地域の周辺には、ロープを張り、人の立入りを禁止する。 少量の場合は、土、砂、おがくず、ウエス等に吸収させ回収する。 大量の場合は、盛り土で囲って流出を止めた後、液面を泡で覆い容器等に回収する。
二次災害の防止策	<ol style="list-style-type: none"> 漏洩時は事故の未然防止及び拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。 付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。

7. 取扱い及び保管上の注意

<p>取扱い</p> <p>技術的対策</p> <p>注意事項</p> <p>安全取扱い注意事項</p>	<p>1. 指定数量以上の量を取扱う場合には、法で定められた基準に満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行う。</p> <p>2. 熱、火花、炎、高温体等との接触を避けるとともに、みだりに蒸気を発散させないこと。禁煙。</p> <p>3. 皮膚に触れたり、眼に入る可能性のある場合は保護具を着用する。</p>
<p>保管</p> <p>保管条件</p> <p>適切な技術的対策 注意事項</p> <p>容器包装材料</p>	<p>1. 室内で取り扱いを行う場合は、十分な換気を行う。</p> <p>2. 換気装置をつける場合は、防爆タイプを用いる。 ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質と接触しないよう注意する。</p> <p>1. 直射日光を避け、涼しく換気の良い場所に保管すること。</p> <p>2. 容器を密閉し、保管場所に施錠すること。</p> <p>3. 危険物の表示をして保管する。</p> <p>保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。 ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質との接触並びに同一場所での保管を避ける。</p> <p>容器に圧力をかけない。圧力をかけると破裂することがある。</p>

8. 暴露防止及び保護措置

<p>設備対策</p> <p>管理濃度</p> <p>許容濃度</p>	<p>1. ミストが発生する場合は発生源の密閉化、又は廃棄装置を設ける。</p> <p>2. 取扱い場所の近くに、目の洗浄及び身体洗浄のための設備を設置する。</p> <p>設定されていない(作業環境評価基準:労働省告示第26号、平成7年3月27日)</p> <p>1. 日本産業衛生学会^{a)}(2018年度版)</p> <p>3mg/m³(鉱油ミストとして)</p> <p>500ppm ノルマルブタン (注1)</p> <p>500ppm イソブタン (注1)</p> <p>300ppm ノルマルペンタン (注1)</p> <p>2. 米国産業衛生協議会(2016年度版TLV-TWA)</p> <p>1,000ppm ノルマルブタン (注2)</p> <p>1,000ppm イソブタン (注2)</p> <p>1,000ppm ノルマルペンタン (注3)</p> <p>1,000ppm イソペンタン (注3)</p> <p>3. ACGIH^{b)}(2004年度版)</p> <p>時間加重平均(TWA)値</p> <p>5mg/m³(鉱油ミストとして)</p> <p>525mg/m³(ストッダードソルベントとして)</p> <p>(注1)1日のばく露平均濃度がこの値を超えてはならない</p> <p>(注2)いかなる15分間のばく露濃度の平均値もこの値を超えてはならない。 (STEL:短時間ばく露限界値)</p> <p>(注3)1日のばく露平均濃度がこの値を超えてはならない (TWA:時間加重平均)</p>
<p>設備対策</p> <p>保護具</p> <p>呼吸器用保護具</p> <p>手の保護具</p> <p>目の保護具</p> <p>皮膚及び身体の保護具</p> <p>適切な衛生対策</p>	<p>ばく露濃度とその持続時間の積の総和を総時間数で割ったもの。 この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗顔器と安全シャワーを設置すること。</p> <p>通常必要でないが、必要に応じて防毒マスク(有機ガス用)を着用する。</p> <p>長期又は繰り返し接触する場合は耐油性のものを着用する。</p> <p>飛沫が飛ぶ場合には、普通型眼鏡を着用する。</p> <p>長期間にわたり取扱う場合または濡れる場合には耐油性の長袖作業着等を着用する。</p> <p>濡れた衣服は脱ぎ、完全に洗浄してから再使用する。</p>

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態

【第4類 第3石油類】

形状	液体
色	淡黄色
臭い	ガソリン臭
PH	僅かな臭気
物理的状態が変化する特定の温度/温度範囲	
融点・凝固点	流動点-42.5°C
沸点	初留点-終点 210-240°C
引火点	75°C
発火点	推定値200-410°C
爆発特性	
爆発限界	データなし
蒸気密度	データなし
密度	約0.79g/cm ³ (15°C)
溶解性	
溶媒に対する溶解性	水に対する溶解性:不溶

【噴射剤 LPG】:	プロパン	ブタン
沸点	-42°C	-05~-12°C
引火点	-104°C	-60~-83°C
爆発範囲	2.1~9.5vol%	1.8~8.4vol%
ガス比重	2.1(空気1)	2.01~2.1(空気1)

10. 安定性及び反応性

安定性	常温で暗所に貯蔵・保管された場合、安定である。
危険有害反応可能性	強酸化剤との接触を避ける。火災や爆発の危険をもたらす。
避けるべき条件	混触危険物質との接触。 爆発範囲内にあって着火源があると、燃焼・爆発するので、その条件を避ける
混触危険物質	ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質との接触しないよう注意する。
危険有害な分解生成物	燃焼等により一酸化炭素等が発生する可能性がある。
その他	現在のところ有用な情報なし。

11. 有害性情報

急性毒性	
経口	急性毒性(経口)に区分する情報はない。
経皮	急性毒性(経皮)に区分する情報はない。
吸入	急性毒性(吸入)に区分する情報はない。
皮膚腐食性及び刺激性	皮膚腐食性及び刺激性に区分する情報はない
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	混合物との区分を基に、混合物として区分2Bとした。
呼吸器感受性又は皮膚感受性	呼吸器感受性又は皮膚感受性に区分する情報はない。
生殖細胞変異原性	生殖細胞変異原性に区分する情報はない。
発がん性	発がん性に区分する情報はない。
生殖毒性	生殖毒性に区分する情報はない。
特定標的臓器/全身毒性(単回暴露)	特定標的臓器/全身毒性(単回暴露)に区分する情報はない。
特定標的臓器/全身毒性(反復暴露)	特定標的臓器/全身毒性(反復暴露)に区分する情報はない。
吸引性呼吸器有害性	40°Cの動粘性率が20.5mm ² /s以下の炭化水素でありヒトの摂取により肺への吸引を起こし、その結果油性肺炎または化学性肺炎をもたらすとの報告がある。 混合物については、混合物の分類に基づき、危険有害性の区分を分類した。

12. 環境影響情報

水生環境急性有害性	ノルマルペンタン、イソペンタンが区分2に該当するが、全成分の濃度を計算すると、区分に該当しないとなる。
水生環境慢性有害性	イソペンタンが区分2に該当するが、全成分の濃度を計算すると区分に該当しないとなる。
オゾン層への有害性	モントリオール議定書の附属書AからEに記載された規制物質を含んでいないため対象外とした。
生体毒性	現在のところ有用な情報なし
残留性・分解性	現在のところ有用な情報なし
生体蓄積性	現在のところ有用な情報なし
土壌中の移動性	現在のところ有用な情報なし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事業者は産業廃棄物を自ら処理するか、又は都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。 2. 投棄禁止。 3. 埋立処分を行う場合には、あらかじめ焼却設備を用いて焼却し、その燃えがらについては、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令」に定められた基準以下であることを確認しなければならない。 4. 焼却する場合は、安全な場所で、かつ、焼却または爆発によって他に危害または損害を及ぼす恐れのない方法で行うと共に、見張り人をつける。
汚染容器及び包装	<ol style="list-style-type: none"> 1. 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 2. 空容器を廃棄する場合は、内容液を完全に取り除くこと。

14. 輸送上の注意

国際規制:	
海上規制情報	IMOの規制に従う。
航空規制情報	ICAO/IATAの規制に従う。
国連番号	1950
品名	エアゾール (Aerosols)
国連分類	2.1
容器等級	-
海洋汚染物質	非該当
国内規制:	
陸上	消防法の規制に従う。
海上	船舶安全法の規制に従う。
航空	航空法の規制に従う。
輸送の特定の安全対策及び条件	<p>輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れののいように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。</p> <p>危険物又は危険物を収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起さないように運搬すること。</p> <p>食品や飼料と一緒に輸送してはならない。</p> <p>重量物を上積みしない</p> <p>その他関係法令の定めるところに従う。</p>

15. 適用法令

消防法	危険物第4類第3石油類 非水溶性 危険等級Ⅲ
労働安全衛生法	表示対象物質 非該当 通知対象物質 鉱油、ブタン 危険物 引火性の物、可燃性ガス 有機溶剤中毒予防規則 非該当 特定化学物質等障害予防規則 非該当
化学物質管理促進法	塩化直鎖パラフィン(炭素数14-17)(政令番号 1-090)
高压ガス保安法	エアゾールのため、非該当
毒物劇物取締法	非該当
化審法	モノ(又はポリ)クロロアルカン(C=14~17, 直鎖型) 優先評価化学物質(化審法官報整理番号 2-68)
船舶安全法	高压ガス、エアゾール (危険物船舶運送及び貯蔵規則 第2、3条、告示 別表第1)
航空法	高压ガス、エアゾール (航空法施行規則 第194条、告示 別表第1)

16. その他の情報

参考資料

- 許容濃度等の勧告、日本産業衛生学会(2018)
- 米国産業衛生専門家会議(ACGIH)“TLVs and BELs 2004”(2004)
- WHO/IPCS:「環境保護クライテリア(EHC)」(1996)
- 米国産業衛生専門家会議:ACGIH documentation, 7th (2001)
- ASTDR: Toxicological Profile (1995)
- HSDB: Hazardous Substance Data Bank (2005)
- PATTY, 4th (1994)

記載内容の取扱い

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性に関してはいかなる保証をなすものではありません。また、法令の改正及び新しい知見に基づいて改訂されることがあります。本安全データシートは、本製品の通常の取扱いを対象とし、安全な取扱いを確保するための参考情報として、取扱う事業者者に提供されるものです。取扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取扱い等の実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いいたします。